



同友しずおか

題字：遠藤 在氏 榛原支部



私の逸品

技へのこだわりを地元特産の石に込める

金子石材 滝戸

詳細は WEB で！ (富士宮支部)

静岡同友会 検索

特集

静岡財務事務所との意見交換会

同友会での学びを企業づくりに生かす～役員研修会を各支部で開催～

会員訪問記

渡邊 隆太郎氏 シェ・ワタナベ・沼津支部

山岸 浩幸氏 山岸建設(株)・志太支部

シリーズ

委員会・部会通信 海野 敦氏 海野サッシ商会・組織拡大委員会委員長

その他 主な内容

支部だより、同友会大学、静岡大学連携講座、委員会・部会通信・会員訪問記、新入会員・名義変更紹介、友達の輪、中日本ブロック事務局員研修

平成28年度 重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営の実践で、同友会型企业づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章の精神をいかした中小企業振興基本条例の制定をめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

静岡財務事務所との意見交換会

10月21日(金) 静岡同友会会議室 参加17名

東海財務局静岡財務事務所との意見交換会を初めて開催しました。財務事務所からは児玉光載所長をはじめ、総務・財務・理財課長、同友会からは福田克己副会長、副代表理事、政策、広報情報、経営労働委員会、そして中遠支部、県事務局から総勢17名が集まりました。



児玉 光載所長

静岡財務事務所は、財務省の地方支分部局の一つにあたる東海財務局の出先機関、また金融庁の事務委任の機能を兼ね備えた機関で、本県の財政、

金融・証券及び国有財産等に関する業務を行う公的機関です。県経済の実情や動向を把握、財務省の政策に反映されるよう、本県と財務省を結ぶパイプの役割を果たし、地域経済と密接に関わっています。

井上齊副代表理事の進行の下、児玉所長から開催実現のご挨拶を頂き、続いて福田副会長から、同友会の理念や成り立ちを織り交ぜながら開催挨拶をしました。

その後、財務事務所から事業紹介が行われました。公共事業融資、国有地の貸付・売却、金融機関の検査・監督、経済動向調査のためのヒアリング、広報相談、地域連携の取り組み等、多岐に亘る業務説明を頂きました。また本年8月2日閣議決定の「未来への投資を実現する経済対策」の中小企業・小規模事業者の資金繰り、経営力強化、生産性向上の支援等も紹介頂きました。そして「金融仲介機能のベンチマーク（中小企業の経営改善や担保・保障に依存していない融資にどれだけ取り組んでいるかを客観的に自己評価し、企業・地域の活性化を図ることを目的にしたもの）」の趣旨、評価項目等も丁寧に教えて頂きました。

同友会からは会員企業の業況として箕威頼氏（㈲アサギリ・県副代表理事・富士宮支部）、今野英明氏（光誠工業㈱・県政策副委員長・榛原支部）の2名が報告。箕氏からは産廃中間処分業、肥料製造業の業況を、販路と設備投資の観点で、今野氏からはドアミラーを主とする樹脂への特殊



焼付塗装業のリーマン後の業況、金融機関との関わり、コスト削減、労働分配率、経常利益率をふまえて報告。

その後の意見交換も活発に意見が挙がりました。その一つとして、同友会の企業づくり「経営指針の成文化と実践」を説明し、金融庁策定の「金融仲介機能のベンチマーク」の策定に対する期待と併せ、経営指針書の効力、事業性融資の更なる推進について意見交換しました。

第一部終了後、同会場で交流会も行い、財務事務所、同友会の取り組みを知る・伝える良い機会となりました。継続して意見交換の場が今後も持てる期待を込め、閉会しました。

<ご参加頂いた静岡財務事務所の皆様(敬称略)>

児玉 光載	静岡財務事務所 所長
石原 敏之	同 総務課長
船橋 秀樹	同 財務課長
河瀬 克志	同 理財課長

参加者感想

財務事務所との初めての意見交換会に参加し、有意義な時間を過ごすことができました。

今夏に行った県経済産業部との意見交換に続き、自社の業況報告も行えました。日常の会社経営や支部活動だけでは財務事務所と双方向で話のできる環境や機会がなかったため、今後もこのような機会を多く持てれば嬉しく思います。今回正副代表理事だけでなく、各支部長、県専門委員会にも呼び掛けをして頂きましたが、各支部や専門委員会活動の中で話し合われる会員の率直な意見や要望をさらにまとめる仕組みを会内に構築していければ、さらにオール静岡同友会として発展していくのだろうと思います。

今野 英明氏（光誠工業㈱・県政策副委員長）

「同友会での学びを企業づくりに生かす」

同友会は入会しただけで得られる学びは少なく、主体的に参加することで多くの「気づき」を得られます。より多くの「気づき」を得て、企業経営の発展に結びつけるには役員を受け、活動する必要があります。支部運営を司る役員の立場になって初めて体感できることがあります。役員会で他の方の考え方を学び、自社（自分）に落とし込むのです。私自身同友会活動と共に自社経営を行ってきました。そして自分がどうすべきかの「在り方」を多く学びました。企業活動と同友会活動は不離一体です。県正副代表理事会では定期的に役員研修会を開催し、各支部役員の皆さんをバックアップしていきます。皆さん積極的に役員になりましょう！



箕 威頼氏 (㈱アサギリ・県副代表理事)

富士宮支部

同友会活動のすべては「よい会社づくりの為」!

9月27日(火) 富士宮清掃(有) 会議室 参加15名

知久正博氏 (㈱知久太田会計事務所・県代表理事) より報告頂き、同友会活動の本質をずばり教わった研修会だったと感じます。冒頭で「同友会の三つの目的」「自主・民主・連帯の精神」「国民や地域と共に歩む中小企業」について、同友会の歴史を踏まえながらの説明がなされました。「同友会活動はボランティアではなくすべてがよい会社を作る為の活動の一環。同友会にボスは不要、自立した人間同士の会運営は会社運営にとっても大切」という言葉に、あらためて会に参加する姿勢を学ばされました。

同友会における役員とは「自立した会員の中でたまたま選ばれた会員で、原則的には一般会員と立場は同じであり、役を任されることで役割の勉強をする機会を与えられている」との説明を受け、確かに自社での経営者としての立場では学べない多くの事が、同友会の役員を通じて学べていると感じます。また役員になることで、他支部や全国の同友会員と交流を図る機会も増え、結果として経営者としての成長、自社の成長に繋がるという話も役員の大きな役得と言えるでしょう。

役員研修会ではありましたが、個人的にはあらためて同友会の本質を学ばされ、今後は同友会活動と会社の成長を両輪のように考えながら、会運営に携わっていきたいと考える良い機会となりました。

中村 仁氏 (社会保険労務士法人シャイン・富士宮支部)

富士支部

同友会での学びを実践に生かす

9月21日(水) ラ・ホール富士 参加13名

河原崎信幸氏 (シンコーラミ工業㈱・県副会長) による報告でした。同友会における役員とは、「会員の意見を集約し、協議し、決議する」これが大原則であるという事でした。会員訪問や支部行事の後に開催される懇親会にも意義がある場合が多い。積極的に誘い込んで、そこで魅力を伝えることも一つの役割かも知れないとお話がありました。

良い経営者になるためにというテーマでは、河原崎氏は「忙しいは言い訳にならない。忙しい人ほど活躍している!」「自ら動かなければ実りはない!」「相手の懐に飛び

込んで微差を大差にすること」など、自らの経営哲学の報告もありました。

「会員は辞書の1ページである。自らを1ページにするために活動しよう!」この言葉は非常に響きました。「自社の殻に閉じこもってはいけいない、積極的に活動し、良い経営環境を作るために同友会の役員活動をしていって欲しい」長年の経験と知識、地域活動で得た河原崎氏の一手一投足には足下にも及ぶはずありませんが、一つでも実行できるように今後活動していこうと思わせる研修会でした。

川村 晃睦氏 (㈱ダイワ装備・富士支部)

浜松支部

知っていますか?

同友会3つの目的の全てに使われている言葉を

10月6日(木) ㈱ユーモア シンフォニー 参加7名

浜松支部役員研修会は井上斉氏 (ワシロック工業㈱・県副代表理事) より、ご本人の会社の事と同友会との出会い、同友会役員の役割等についての報告でした。

同氏の経営する業界は全盛期に比べ約7分の1に収縮しているそうです。県内に約50社あった同業者が今は3社。その中の1社として生き残れているのもトップダウン経営から社員へ権限委譲をし、自立型社員を育成する経営へシフトしたからだと言います。経営方針を変えたことも同友会での気づきが大きかったとのこと。

同友会3つの目的にある共通の言葉とは「自主的」です。社員が自ら考えて行動でき、社長が不在でも運営できる会社は時代の流れにも耐えうる強靱な会社になると言います。同友会に参加すれば当然ながら社長としての物理的な時間は割かれます。しかし、会活動で得た経験や考え方などを社員へ浸透させることができれば相乗的な効果が得られます。同友会での学びによる経営者としての成長と会社経営は両輪の関係です。社長も自主的に役員になり、会員のお手本となることが自社にとっても良い結果をもたらすこととなります。

現在の浜松支部の組織率は他支部と比較すると低く(0.09%)、まだまだ増強の可能性があります。そのためには役員が中心になり、何よりもよい例会を企画し、そこに参加した人たちから自然に同友会の魅力が伝わるようにしていきたいと強く思いました。

阪西 敏治氏 (㈱エーグッド・浜松支部)

支部だより

静岡例会

企業は人でできている

10月11日(火) ペガサート 参加70名



山崎 かおり氏

板金技術の未来を育む「三代目板金屋」、山崎かおり氏(株山崎製作所)による報告でした。同社は精密板金、板金加工を得意とし、現在はステンレス、鉄をはじめ、アルミ等の非鉄金属にも対応しています。山崎氏は第6期経営指針を創る会を卒業し、経営指針を通じて自社の方向性、ピラミッド状の階層型組織ではなく「球体」の組織作りなどを社員に分かりやすく図示し、ビジョンを共有してきました。そして、経営方針に基づく戦略として、医療機器等への販路拡大、様々な展示会への出展を実施。「開発型企业への変革」を社員と共に目指し製作した日本の伝統美溢れるかんざしを、東京ビッグサイトでの展示会に出品したことにより、国内外から注文の機会が増えたとのこと。また、展示会での出会いがきっかけで、精密板金加工のコーヒータブがTV番組の中でのインテリアとして使われることにもなったそうです。職人気質の社員の中で山崎氏は、社長として同友会で学んだことをこれからも実践し、社員と共に自社の企業ブランドを高めていきたい、と述べました。長い年月をかけて熟成した伝統的な板金技術の素晴らしさを、昔と現代、そしてアイデアとデザインを融合させ、ものづくりの精神を次の世代に伝えていきたい、という氏の熱い思いが、参加者の心を強く打つ例会となりました。

望月 彰三氏(株望月US・静岡支部)

御殿場例会

「未来に向けたまちづくりのために」

～見逃していませんか? 地元で落ちているビジネスチャンス～

10月12日(水) エピ・スクエア 参加69名



若林御殿場市長(右) 田代産業部長(左)

御殿場市の行政リーダーである若林洋平市長をお招きした「未来に向けたまちづくりのために」と題したパネルディスカッション形式の意見交換会を実施しました。4名の代表者による11項目の質問事項に対して、未来の御殿場のために若林市長自らが熱く答弁されました。ふるさと納税に関わる取り組み、商工会との連携事例、街の景観条例、交通インフラに

ついて様々な視点での質問と答弁が行われました。特に4年後の東京オリンピックに向けて、新東名の延伸が着実に進んでおり、新しいインターチェンジやスマートICの設置などで御殿場の動線が変化し、そこに生まれる新たなビジネスチャンスに対して地元会員企業から積極的な取り組みの依頼がありました。また、「中小企業憲章の制定」に関して、大川委員長自ら市長への問いかけに対して、市長より前向きな回答を頂きました。少子高齢化の課題を解消するために行政と中小企業が連携、一体となって遂行する中小企業振興基本条例の制定に向けた大きな一歩が踏み出せた会となりました。同友会3つの目的の3つ目の実践が今まさに動き出しました。

勝俣 智史氏(株フィットコーポレーション・御殿場支部)

富士宮例会

事業承継に込めた想いと、承継から6年を経たの現在地

10月14日(金) 志ほ川バイパス店 参加43名

河原崎信幸氏(シンコーラミ工業(株))から事業承継について、25分の問題提起。その後、前半を「事業承継をどのように捉えていますか?」、後半を「あなた



河原崎 信幸氏

が急にいなくなっても、会社は機能しますか?」というテーマで、前後半でテーブル長を変え、計65分のバズセッションを行いました。その中では、承継のために自分は何を考えているか、行っているかの意見が出てきました。経営している中で「次に繋ぐためにも、まずはしっかりした会社を作ることを目指す」「買収したくなるような、売れる価値のある会社を目指す。また買収視線で他社を視て、自社の糧にする」「自分がいなくなったときのためのリスク管理のためには何をすれば良いか」など熱く意見が交わされました。経営者の強い信念、熱い想い、夢、企業理念、これらを従業員と共有する環境づくりや教育が大切なのだということも共有されました。また、バズセッションの中、報告者である河原崎氏が「毎年の健康診断はオールグリーン、インフルエンザすらからない」と笑いながら話されるのを聞いて、毎日死ぬ気でやってきた覚悟の顕れだと私は感じました。今回の例会は、次に続く若き経営者への「種」をもらった例会となりました。

鈴木 進太郎氏(株肉のすずき・富士宮支部)

支部だより

伊東例会

なぜ、伊東で“ぐり茶”なのか？ ～観光地伊東でのこれからのぐり茶戦略とは!?～

10月19日(水) ひぐらし会館 参加12名

市川正樹氏(株)市川製茶工場)の報告では、明治政府の産業政策から始まった茶業の歴史から自社の成り立ち、自社の歴史と事業継承・相続時の困難について語りました。



市川 正樹氏

「父の急死により会社を継いだときには現場だけで経営には関わっていなかったが、今では多くの社員に支えられている。自身の病気の時にも片腕である幹部社員が頑張ってくれた。毎年行っている納涼祭でも、発案は自分だが今では社員が企画から運営まですべて行い、年々地域の参加者も増えている」と嬉しそうに語りました。また、社員が、自分が動かなくても良いように考えてくれるようになったと語り、後継問題については社員の中からすでに後継者を選んでおり準備を進めていると報告しました。

報告の後、「自社の地域戦略をどう考えていますか？」をテーマにお互いの取り組みや地域活性化へ向けての討議を行い、地域と共に生きる自社について考える例会となりました。

西村 元秀氏(㈲にし村・伊東支部)

沼津例会

もっとお客様に喜ばれる仕事を マーケティングが教えてくれた新たな道

10月19日(水) プラサヴェルデ 参加54名



津賀 由布子氏

全県経営フォーラムで報告者を務める津賀由布子氏(㈲サンディオス)が報告。冒頭、新事業の報告と「なぜこの事業を始めるに至ったのか」という話に続いて、自社と自身の歴史を語りました。

チラシなど広告ツールの製作を軸とする同社は創業30年余りを経過し、事業承継が課題に。家族ゆえ歯に衣着せぬ言動で離れ離れになった絆を本人の挫折、会社の危機がきっかけで徐々に取り戻していきます。また、この経営課題で悩んでいたときに同友会へ入会。一念発起して会社を継ぐ覚悟ができたとのこと。

その後、社長就任から出産、育児による休職を経て会社復帰。その際、フリーランスの増加や女

性の社会進出をはじめとする時代の変化の速さに危機感を抱き、新しい事業展開の模索を始めます。そこで出会ったデザイン依頼の仕事の中で「マーケティング」というキーワード。ここから、また新たな挑戦が始まります。

社員の自発性を引き出す社内環境づくりや人材育成、より女性が活躍できる社会や子育てと両立できる社内体制作りに関する取り組みなど、母として、女性として、そして経営者として語る津賀氏の報告は、全県経営フォーラムにおいても、経営について考える上で新しい「気付き」が得られることと思います。

大神田 浩司氏(株)ヒッピーズ・沼津支部)

浜松例会

会社の羅針盤＝経営指針づくり

10月19日(水) ㈱エーグッド 参加21名

浜松支部例会の年間テーマである「経営指針」に基づき、浜松支部から「経営指針を創る会」に参加する2名が現在の進捗状況等について発表しました。杉山尚也氏(株)ハーモニー)は、指針を創る会の概要を説明。そして永田晃士氏(株)ウイリングネス)は、経営指針創りの中でどのような指摘を受け、どのように考えが変わり、自社の理念づくりにどのように反映させたのかを、具体的に報告しました。この会は経営に必要な知識や方法を学ぶだけではなく、自分が自社や自身を見つめ直し、どう捉えていくかを考える場でもあると感じました。



杉山 尚也氏

バズセッションでは、報告の中でも話の中心に出てきた「自社の強み、弱み」について話し合いました。各グループから自社の強みに関する討論のまとめを伝えてもらいましたが、様々な角度からの意見に、本当の強みは何なのかを考える良いきっかけになったようです。また、自社の「状態」を「強み」と勘違いしないこと、本当の自社独自の強みとは従業員、つまり「人」に宿るのだという意見も共有されたのが印象的でした。



永田 晃士氏

今回の例会は他支部からの応援もあり浜松支部では多い参加者がありました。オブザーバーも増えますます活気のある会が期待されます。

杉山 尚也氏(株)ハーモニー・浜松支部)

支部だより

富士例会

良い会社づくりは良いまちづくり ～同友会と中小企業振興条例～

10月20日(木) ロゼシアター 参加31名



伊藤 光昭氏

伊藤光昭氏(伊藤金物(株)・富士支部政策委員長)より、中小企業振興条例と同友会の関わりについて、説明して頂き、会員の皆さんも政策委員会の取り組みがよく理解出来たの

ではないかと思いました。また富士市では平成30年改正に向け、富士市中小企業振興基本条例の改正計画が進んでいます。そのタイミングで、委員会報告が開催されました。

今回、先進的な他県の支部では、政策委員が中心となり活躍されていることを報告で学び、とても他人事とは思いませんでした。中小企業振興円卓会議の設置と開催により、同友会を中心に、地域の関わり合いのある各種団体・金融機関・学校教育機関・一般市民など幅広く集まり、将来の地域発展の為の展望を議論すること。国・県・市から支援を頂き、中小企業支援センターを設立することで、企業単独では、購入することが難しい例えば“高度な品質分析・検査機器・3Dプリンタ”などを、低額な費用でいつでも利用できること。既に、その様な事が実現できている事例を報告頂き、大変身近な話で実現出来たら私たち中小企業が新分野などにチャレンジしていこうと想像しました。

私たち会員が、この機会にもっと政策委員会の取り組みに関心を持って、委員会だけでなく支部全員で条例の改正に取り組んで行くことが、大切だと思いました。

片平 毅氏(㈱ティーケーシステム・富士支部)

志太例会

青年部活動で再燃！仕事への野心と情熱！ ～主体者になったから鍛えられた覚悟～

10月20日(木) 藤枝市文化センター 参加26名

静岡同友会青年部の初代会長を務める、寺田卓正氏(㈱ニューウェーブ)。自社の創業時から現在までに寺田氏自身が乗り越えてきた経験、悩み、今後の展望、そして自社経営と青年部活動の関係について、熱く語りました。雇用主として、アルバイトをしながら人を雇っていた創業時のこと、現場に入れば入るほど悪くなる社員との関係、自身の片腕だっ



寺田 卓正氏

た社員の退職…。様々な苦悩のなか、仕事への情熱が持てなくなっている自分に気づきます。そんな折に参加した青全交で「世界に誇れる日本の未来を創ろう」と本気で誓い切磋琢磨する仲間がいることを知り、自分の覚悟の足りなさを自覚。自ら主体性をもって動こう！逃げない！と仕事への情熱を再燃させたのです。

「あなたにとっての経営のモチベーションはなんですか？」をテーマとしたバスセッションでは、社員とお客様が幸せになること、人を喜ばせる人になること、お客様の感謝の声を聴くこと、家族、社員の生活を守る責任など、さまざまな意見が飛び交いました。

社員と同じ方向を向いて、今と理想のギャップを埋め、今の自分・会社よりも一つ上を目指していくことが、高いモチベーションをもって仕事に取り組む、夢ある未来を創っていくことにつながると感じました。

山田 幹也氏(㈱立花ガーデン・志太支部)

榛原例会

幸せの源泉は3つの付加価値に有り

10月20日(木) さざんか 参加40名

池村邦雄氏(元信用金庫職員、元同友会志太支部会員)に講演をして頂きました。現在牧之原市では、中小企業振興条例の制定に向けて動いており、我々同友会榛原支部も係わっています。



池村 邦雄氏

池村氏からは条例制定後に中小企業に必要なこととして、「経済的」「人的」「コミュニケーション」の3つの付加価値を提示していただきました。中東のサウジアラビアでは2030年までの経済改革計画「ビジョン2030」として石油依存型経済から脱却し、中小企業など民間企業の役割を拡大させる計画もあるという点から、付加価値(第2次産業、第3次産業等)の重要性を説き、日本政府も取引条件の改善を大企業に促すために動いていることも含めて報告がありました。更に武道では「10年で自分の強さを知る。20年で相手の強さを知り、30年で自分の弱さを知って謙虚になる」という言葉があるが、これは中小企業の経営にも通じるというお話もあり、中小企業の付加価値について改めて考えさせられました。また、元信金マンだからこそ知る、金融機関から見る決算書の見方も教えていただき、皆さんも釘付けになる場面もありました。池村氏の中小企業を支えたいといった気持ちが轟々と伝わってきた例会でした。

河内 崇文氏(㈱スマートブレイン・榛原支部)

支部だより

三島例会

あなたの意見が三島を変える！

～条例を知り・考えることで変えてゆく三島の未来～

10月24日(月) 三島商工会議所 参加14名

高木基氏 (パリュール・トーカー(株))、三田宏一氏 (㈲エムケイテクノ)、朝日康典氏 (㈱朝日鉄建)・宇佐美健介氏 (㈲エージェントうさみ)より報告頂き、中小企業振興条例について学びました。



三田 宏一氏

まず高木氏より、条例を策定する意義、条例策定後の目指すべき方向性について松山市の振興条例のレジユメを参考にした報告、及び、今までの三島支部の条例に対する取り組みをお話し頂きました。

続いて、三島市が設置したがんばる中小企業応援会議での様子や取り組みについて、会議に参加している三田支部長から報告がありました。その中でも、商業統計をもとにした三島市の現状、盛業化、女性の活躍、事業継続計画、事業承継をテーマにした三島モデルの確立等、条例策定を足掛かりとした三島市の未来に向けての議論の内容を紹介して頂きました。

富士宮支部より参加して頂いた朝日支部長、宇佐美元支部長からは支部の条例に対する取り組みや行政との関わり、中小企業の地域における役割等について熱く語って頂きました。バズセッションでは「いま、なにができるのか?」「がんばる中小企業ってどんなものですか?」というテーマで議論しました。

条例が地域にもたらすものがどれほどか完全に理解できたとは言い難いですが、我々中小企業が輝くことが地域の今、そして未来にどれほど大切なことを報告者及び進行役の山下氏の言葉から強く感じられた例会でした。

久保 修平氏 (㈱和楽・三島支部)

◆同友会大学第2講座

「超弦理論の予言する世界」

講師：森田 健氏 (静岡大学理学部講師)

10月1日(土) 静岡同友会事務局



森田 健氏

年齢とともに学ぶ機会が減り、知識が偏りがちに、さらに固定観念が強くなると感じています。これまでの2回の講義で、幅広く多面的な知識、情報に触れ、頭を柔軟に保てる事、その重要性に気づかされました。また各分野の思考

方法や発想を体感する事が知識、情報の習得以上に意義があると思えました。

相対性理論や量子力学はすでに多くの物に活用されているばかりか、宇宙の始まりから、私たち生命自体これらの仕組みで作られ、生かされています。その事実の向こうに、9次元の超弦理論の世界が構築されようとしています。しかし日常感覚から乖離した、それらの現実、私たちには、なかなか受け入れがたいのも事実です。紙上の2次元世界での漫画の主人公には、3次元の世界を想像できません。同様に、我々も9次元の世界を想像はできません。しかし理解しがたいからと言って否定はできないとの次元の説明がありました。

思えば、会社の経営目標や意味は説明できても「人間の生きている意味」や「生命とは何か」などは、まるきり謎です。実際、我々は何も分かっていない事にあらためて気づかされました。もし高次元のあの世から見れば、この世の真の意味が理解できるのかもしれませんが。聖書には「富は、天に積みなさい」とありますが、経営方針もこの世でしか通用しないお金や資産ではなく、違った目標になるのかも?当日出来なかった中学数学を用いた特殊相対性理論入門に挑戦してみました。設問を順に回答する事で、光速不変により時間と距離が変化する事が証明できる設定になっていました。数学を利用し証明する事で特殊相対性理論が理解できたような気になるから不思議です。森田先生は、バズセッションで数学の重要性と

理論を数学で証明する手法を私たちに紹介したかったのかと思いました。

市野 征則氏 (㈱丸二商会・静岡支部)

◆同友会大学第3講座

「イスラムの歴史的、思想的背景をさぐる」

講師：宮田 律氏 (静岡県立大学国際関係学部准教授)

10月22日(土) 静岡同友会事務局

近年、「イスラム」という言葉を聞くと「自爆テロ」や「イスラム国」といったマイナスイメージを伴うことが多くなっています。7月にはバングラデシュで日本人が犠牲になる立てこもり事件もありました。しかし、本来イスラム教は、預言者であるムハンマドが現在のサウジアラビアにあるメッカの人々の貧富の差の拡大に心を痛め、神の前の人々の平等を説いた「正義」と「平等」を求める宗教です。



宮田 律氏

ではなぜ「イスラム国」が台頭してきたのでしょうか?平等を説いているにもかかわらず拡大していく貧富の差、シーア派とスンニ派の間に生み出された差別などの経済的・社会的問題が背景に存在するという事でした。また、天体を観測しながら移動する生活習慣があったため、移動する人間に対する強盗行為は厳しく罰せられることや、スンニ派とシーア派の違いなど、時折ユーモアを交えながら教えていただきました。

「私たちは、イスラム世界とどのように向きあえばよいのでしょうか?」が討論テーマでした。対個人なら、彼らの信仰や生活習慣を最大限尊重してあげればよいでしょう。イスラム諸国には中小企業がほとんど存在しないそうです。そこで、彼らが経済的利益を得て貧富の差が少しでも縮まるように、「お金を調達しやすいようなシステムをつくれないうだろうか?」「個人で優れた技術を持つ職人たちをまとめて組織をつくれないうだろうか?」等、各グループで活発な意見が交わされました。

宮澤 学氏 (宮澤電池産業(株)・静岡支部)

静岡大学連携講座始まる

今年で9年目を迎えた「企業経済特論Ⅳ」の講座は、中小企業への関心を高めてもらい、経営者の魅力を感じてもらうこと、また中小企業の果たす役割の大きさを知ってもらうことが目的です。受講生は約100名、中小企業の経営者の生き様や経営哲学に触れ、中小企業ならではの魅力や企業の姿を知る機会になっています。

第1講 10月5日(水) 「日本経済における中小企業の果たす役割と意義、この講座の目的と意義」

遠藤 一秀氏 遠藤科学(株)・静岡支部

総務省などの統計をもとに、中小企業が日本経済・地域経済で70～80%のウェイトを占めている現状や、地域社会の担い手として活躍している様子を伝えました。また決算書は“企業の通信簿”であると、利益だけでははかれない企業の価値について、付加価値計算書の分析にもとづいたもう一つの読み方を披露しました。



第2講 10月12日(水) 「中小企業の立場で時代を考える」

佐野 譲二氏 ㈱和泉運送・富士支部

日本経済の「血液」、運送業。その立場から見続けてきた中小企業を取り巻く環境の変化、そこから繋がる今。同友会での学びも絡めながら、「自立」をキーワードに自社、社員、経営者、地域を捉えて経営理念を打ち立て実践する事例、大局観を持って新しい時代を模索する事例を伝えました。

第3講 10月19日(水) 「社会で役立つ人間になるために」

陰山 明典氏 静岡醤油(株)・静岡支部

製法・原材料にこだわり、高品質の醤油を醸造している陰山氏。醤油業界が厳しい状況に直面する中、生き残るための戦略を考えます。その経験から考えた社会で役立つ人材について報告しました。仕事では結果が求められ、求める努力が必要であり、そのためにはコミュニケーションを取ることが大切であること等、社会で必要となる姿勢について伝えました。



第4講 10月26日(水) 「中小企業の海外展開」

鈴木 雅夫氏 ㈱ハチマル・榛原支部

ワイヤーハーネスと醤油醸造の2つの事業部門をもつハチマルの、中国への事業展開を報告。中国の評価は様々ですが、異質な文化や、歴史、習慣などの違いから、コミュニケーションの取り方、付き合い方を理解することで、現地で働く従業員との信頼関係を構築したと、グローバルな視点を持つ大事さを力説しました。

連裁 Linkai・Bukai tsushin
委員会・部会通信
第7回

組織拡大委員会(しずおかプラス1)



昨年度から組織拡大委員会(しずおかプラス1)の委員長を務める、海野敦です。昨年度は延べ105名の方を皆さんにご紹介頂き、1000名会員突破を果たすことができました。ご協力、本当にありがとうございました。今年度は、静岡同友会2020年ビジョンの“同友会づくり”における会員数1500名実現の達成に向け、「増やそう仲間、みんなでなろう良い経営者、1つになろう静岡県」のスローガンの下、学びの辞書の1ページである“いい企業づくりに熱心に取り組んでいる経営者”を増やし、早期1200名会員を達成したいと考えています。

委員会では、同友会の真髄である“人を生かす経営”の実践に向け、支部を越え誘い合い学びの場である例会に参加し、イントロセミナーの開催やオプザーバーの要請、応援、また、委員会内でモデル企業

輩出をめざし経営を向上させる取組を行っていきます。静岡同友会らしい増強のやり方等のアイデアも提案できるよう思案中です。

静岡岡県内地域を元気にする中小企業の連帯、地域貢献、経営環境改善一条例制定、これらの同友会運動の実現のため、仲間を増やして会を活性化していきたいと思えます。その最初の入り口である紹介、入会の部分を担う委員会として、これからも行動、実践をしていきます。

△ 員の皆さん、同友会の中で自分が感じている良さ△を1つでも周りの経営者に伝え、会員を増やしていきましょう。会員の皆さん一人ひとりが新しい仲間を「プラス1」、そのために委員一同、レスポンス良くお役に立てるよう協力させていただきます。これからもどうぞよろしくお願い致します。

海野 敦氏 (海野サッシ商会・組織拡大委員会委員長)

お問い合わせ・参加申し込みは、同友会事務局まで! TEL: 054-253-6130

全ての人に感動を与える菓子職人をめざす

シェ・ワタナベ

渡邊 隆太郎氏 (沼津支部)

事業内容：ケーキ、パン、焼菓子、パルフェ、食事・アレルギー用ケーキ、低カロリーケーキ

創業：1991年

社員数：正規6名

入会：2015年3月

所在地：沼津市日の出町1-15

TEL：055-922-0081

URL：http://chezwatanabe.com

ケーキ職人になるきっかけ

渡邊氏はアトピー性皮膚炎で、食べ物によっては炎症が起きてしまい、子供の頃とても辛い日々を過ごしていました。その辛さを見ていた両親。父は製菓職人、母は栄養士、周りには多くの食にたずさわる方がおり、一緒にアレルギー対応のお菓子開発を始めます。最初に完成したのは、石のように硬い硬いクッキーでした。甘いだけの美味しくない物でした。しかし、両親の愛情いっぱいのお菓子は一生忘れられない思い出深い食べ物でした。「お菓子が食べられる幸せな気持ち。ケーキ屋さんになろう、全ての人に美味しいと感動してもらえるものを造ろう」これこそ、渡邊氏がケーキ職人を目指したきっかけなのでした。

念願の店舗オープンに向けて

夢の実現に向けてとある洋菓子店で修行をします。1年目では、皿洗い、掃除、食材の下処理、どれも弱い肌には辛い仕事でした。また、繁盛店だったこの店は激務でした。しかし子供の時の両親への思い、アレルギーに



渡邊 隆太郎氏

苦しむ人々への思いが支えとなり奮起することができました。その後厨房内を任せられ多くの勉強や、貴重な体験をし、22歳でシェ・ワタナベ白金台店をオープンしました。著名人のオーダーケーキを手がけテレビ番組にも出演しました。24歳で学園通り店オープン。現在は沼津市内に2店舗、本店は今年で25年目を迎えます。

今後同友会とのかかわり

今後について質問したところ「各部門に分けて専門特化した店舗展開をしていきたい。この目標達成のためには、経営の勉強にも力を注がないといけない。人脈も増やさないといけない。アドバイスも頂きたい。現在様々な悩みがあります。今後の経営のために同友会の活動から多くの学びを得ていければと思います」と語りました。

取材・記事：片野 浩一氏 (有弥生製作所・沼津支部)

老舗建設会社の未来を担う三代目後継者

山岸建設(株)

山岸 浩幸氏 (志太支部)

事業内容：建設業 (土木一式・環境衛生機器販売・土木・道路・河川・水道・治山・鉄道・住宅造成・外構工事等)

設立：1959年5月

社員数：17名

入会：2010年7月

所在地：島田市志戸呂863-1

TEL：0547-46-1133

68年続く老舗建設会社

山岸建設(株)は、昭和23年に祖父が金谷町高熊建設の仕事を手掛け、創業しました。昭和34年に法人化、そして平成19年に移設しました。

土木工事を主とし、公共工事が主のメインで事業を執り行ってきましたが、民間の工事受注できる体制へと変化を重ね、近年では少しずつシフトをしています。

次期社長としての成長を求め入会

山岸浩幸氏は現在32歳、三代目となる後継者です。また、志太支部の若手後継者の一人でもあります。「変化の激しい時代、今後も同じことをしては建設業はダメになってしまう！一緒に勉強していこう！」と建設業の先輩から誘いを受け、同友会に入会しました。現社長ではなく、会社の将来を担う後継者の浩幸氏が入会したのは「同友会を通じて経営者としての資質を養い、時代の変化をとらえ先を見る目を持

たせたい」という現社長の思いからでした。浩幸氏は「業務のために会活動になかなか参加出来ないこともあるが、会社を維持・発展させていく経営者としての学びの場に積極的に参加し、会員から吸収していきたい」と語ります。



左から戸塚氏、山田氏、山岸氏、塚本氏

今後の時代を生き抜くために

土木職人の高齢化による人員不足や公共工事の減少による競合の激化など、さまざまな問題が建設業には渦巻いています。激動の時代のなかで、仕事を獲得するという重要な仕事を現社長から引き継ぐこと。公共工事が減少していく中で、今後、民間工事を広く任せてもらえる魅力ある会社にしていくこと。後継の経営者として、現社長が支えてきた会社を維持発展させていけるよう自身を磨いていくこと。現社長のつくった経営理念を、山岸氏自身が受け継ぎ社内にも浸透させ、理念の理解・共有をはかること。同友会とのかかわりの中から、これらに関するヒントや気づきを見つけ、成長していきたい、と氏は語ります。切磋琢磨しあえる、やる気に満ち溢れた若手後継者との出会いに感謝しつつ、共に未来を見据えながら、互いに成長していきたいと思えます。

取材・記事：山田 幹也氏 (株立花ガーデン・志太支部)

取材：戸塚 康之氏 (有アスカエンジニア・志太支部)

塚本 和成氏 (有塚本商店・志太支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1045名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
おがむら たけのり 岡村武典	合同会社 岡村商店 飲食、菓子製造・販売 (たこ焼き、おいも菓子)	御殿場	勝 又 薫
すがの ひとし 菅野 太	(株)ステック サービス業 (自動車販売・整備・板金修理、損害保険代理店)	御殿場	杉 山 正 英
うえまつ ちか 植松 昌	(株)植松設備 管工事業 (住宅等の給排水工事)	富 士	田 島 博
よしかわ かずのぶ 吉川 和伸	トーヨー商会 内装業 (住宅、店舗の内装工事、家具販売)	富 士	伊 藤 光 昭
なみき かずま 並木 一真	(株)静岡県スポーツセンター スポーツ施設 (スイミング、サッカー、スポーツ教室・スクール、フィットネスジム、スタジオレッスン、接骨院)	榛 原	水 野 勝 也

■名義変更による新名義人 (敬称略)

氏名	社名	所属支部	旧名義人
すぎやま ひとし 杉山 肇	(株)Sun&Sun総合保険事務所	志 太	高 橋 直 巳
うえた てるや 植田 哲也	エルアンドビー総合保険(株)	榛 原	松 下 司

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

友達の輪 第32回

三木清夫さんからのご指名をいただきました。静岡支部の望月渡です。静岡市で自動車の钣金・塗装・新車、中古車販売・修理・車検・自動車保険の販売をしております。

自社の強みとしては、各部門での技術者を揃え、すべての作業を自社内製で行っている事です。各自動車ディーラー、モータース様の钣金、塗装の外注作業から、もちろん個人の方まで、幅広くお付き合い頂いております。車はお客様にとって財産です。作業の仕上がりと正確さにこだわり、日々仕事に取り組んでおります。

父からの仕事を継ぐ為、10年前に9年間のディーラーでの経験を経て戻ってきました。

当初は家族のみの経営でしたので、自分たちが生活できればいいと思っていましたが、年々社員が増え、自分が代表になる2年前、経営者として成長しなければいけないと思い、同友会に入会させて頂きました。自分は会員さんの紹介ではない形で入会させて頂いたので、当初は知り合いもおらず、例会に行くのも少し乗り気ではありませんでした。しかし、会場で素晴らしい経験談、また失敗談を聞かせて頂き、その後テーマに対してバズセッションで他の経営者の方々が話し合う。毎回すごくいい意味で考えさせられ勉強になり、少しずつではありますが、自分が変わってきている様な気がします。世代も業種も違う方々と知り合え、勉強になり、本当に自分にとって大きな財産となり、今ではとても楽しませて頂いております。

次回は原田昌樹さん(株)アレミティ・静岡支部)です。原田さんには、真剣に勉強する時も、楽しくお酒を飲んだりする時も、いいお付き合いをさせて頂いております。原田さん、よろしくお願ひします。

望月 渡氏 (モチヅキオートボディー・静岡支部)



望月 渡氏

2016中日本ブロック事務局員研修に参加して

10月7日(金)・8日(土) 富山県南砺市桜ヶ池クアガーデン

1日目は、山崎正治氏による南砺市エコビレッジ構想の概要と現状、地域循環型社会の構築の必要性について学んだ後、桜ヶ池クアガーデンのペレットボイラーに関する事例、山秀木材の取り組みについて学びました。また、2日目は岐阜、愛知の各同友会事務局員の報告を受けてグループ討論を行いました。

ペレットボイラーの活用によるエネルギーシフトへの取り組みや、山秀木材が中心となって地域資源の組み合わせによる価値の再創造と持続可能性の創出を行っている事例、事務局が「会員を知る」ということに最も重きを置いて働くことの大切さを知ることのできる2日間でした。

この研修を通じ、地域や会員に必要とされる局員に求められるものについて、特に学ぶことができました。今後とも会員訪問をはじめ様々な形で会員を知り、地域を知り、深く考えたいと思います。

下坪 壮介 (局員歴2年6ヶ月)

同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。